

会 議 記 録

高松市附属機関等の会議の公開および委員の公募に関する指針の規定により、次のとおり会議記録を公表します。

会 議 名	平成22年度 第1回 高松市美しいまちづくり審議会
開 催 日 時	平成22年8月31日（火） 10時00分～12時00分
開 催 場 所	高松市役所 11階 職員研修室
議 題	(1) 会長の選任について (2) 美しいまちづくり基本計画の策定に向けて (3) その他
公開の区分	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 一部公開 <input type="checkbox"/> 非公開
上 記 理 由	－
出 席 委 員	井上 雅子, 杉本 三枝, 関 義雄, 増田 拓朗, 松島 学, 渡辺 裕之, 勝浦 敬子, 河田 澄, 橋田 行子, 平池 里恵, 吉岡 和子, 近江 典男, 高口 秀和, 原内 純治, 山地 一敏
欠 席 委 員	－
オブザーバー	－
傍 聴 者	－
担当課および 連 絡 先	都市整備部 都市計画課 Tel 839-2455 Fax 839-2452

会議経過および会議結果

会議を開会し、次の議題について協議し、下記の結果となった。

次のとおり、審議会を開催した。

(1) 会長の選任について

高松市美しいまちづくり審議会規則第3条第1項の規定により会長を選出した。

会長 関委員

会長は、会議を公開するとの確認を行った。

(2) 美しいまちづくり基本計画の策定に向けて

事務局より説明

(3) その他

後日、用紙を配布し、さらに幅広く御意見を頂く旨を依頼した。

次回の審議会を平成22年11月18日（木）午前10時から開催する旨を確認した。

審議経過

<p>(会長)</p>	<p>今日はブレインストーミングということで、それぞれの意見を出し合いながら、これからの叩き台を作っていきたい。美しいまちづくりについて、日頃感じていること等があったら意見を出していただきたい。</p>
<p>(委員)</p>	<p>仕事の関係から、景観や美しいまちづくりに関する条例に接する機会が多い。神戸市などの様々なまちづくり条例では、特に緑化に関する規定等が厳しく定められている。高松市の条例はこれまでであったようなものと痛感している。レインボーロードができたときに、高松市としては頑張っ景観形成に取り組んでいたが、できた空間としては、皆さんご覧の通りである。</p> <p>デザイン、サインの大きさ、色を統一しようとしたら、たくさん問題が出てくる。特に郊外部や新しく出来た道路の沿道ほど大変であると思う。建物が密集している街なかからやっていくほうが、やりやすいのではないか。人が歩けるような街並みから少しずつ変えていくことは可能であると思う。車が通る沿道の建物や看板は、宣伝のために目立たせなければならない。</p>
<p>(委員)</p>	<p>地域の風土が気になっている。他のまちはまちなみに統一感があるが、電車に乗って高松市の風景を見ると統一感がなく、ハウスメーカーの家が建ち並んでいる。香川県の風土とは一体どのようなものなのかが分からない。</p> <p>農地の方に行くと涼しさを感じることができる。目で見るだけではなく、「感じる（体感する）」ことも、美しいまちの1つの要素ではないかと思う。</p>
<p>(委員)</p>	<p>市民アンケートの回収率が40%以上と高く、市民の関心が高いことが伺える。</p> <p>「ここではこういう取組を行っていく」といったように、場所によって具体的な取組を進めていくことが、美しいまちづくりには重要である。</p> <p>栗林公園周辺のマンション問題について触れられていることをうれしく思う。この問題が顕在化したのは20年前である。かつて行った調査では、内部の植栽だけではなく、外周部の建築の規制が必要であるという結論に至った。しかし、周辺の土地利用は商業地域であり、高度利用を図るものとされていた。</p> <p>数年前から高松市は条例で、栗林公園周辺で新しい建物を建てる時に、園内から見えないように配慮することを定めており、時代は変わったと思う。今後このような取組を更に進めてほしい。</p>
<p>(委員)</p>	<p>一つ一つの建物を見たら悪くないが、全体としてのバランスが悪い。美しいまちづくり基本計画は高松市全体に係る計画であるが、それゆえに具体性がなくなる可能性がある。</p> <p>香川県は、自家用広告物の規制がなく、広告物の規制に関しては最も遅れた県の一つでもある。屋外広告物、建物の規制など問題がたくさんあるので、この基本計画を通してこのような問題を考えていくべきである。</p> <p>例えば、栗林公園を歩いた時に、高い建物や広告物を見て、お客さんがどのように感じるか。色や建築形態、高さ規制、屋外広告物、道路と建物の関係など、具体的なイメ</p>

	<p>ージがあったほうが分かりやすいと思うので、お願いしたい。</p>
(委員)	<p>高松港からすぐ近くに行政機関などの主要施設が立地しているのは、高松市の特異な景観だと思う。瀬戸大橋が開通する以前、連絡船から見た夜の景観は、市街地の灯りがたくさん見えて、ノスタルジックな感じでよい。地方都市でこのような景観はかなりめずらしいので、活用していくべきである。</p> <p>讃岐平野のため池とボタ山（里山）が組み合わさった田園風景は高松市の特徴の一つである。これらを後世に残していけるようなルールがあればよい。</p> <p>市民の方に「高松市にはこんなに良い景観がある」ということを、広く発信していくような取組を強化することが必要である。市民の方にとっては、日常生活の中の何気ない風景であるが、これらが素晴らしいものであることを認識してもらえれば、将来的に景観の保全につながっていくのではないかと。ルールづくりと同時に、情報発信、PRができる仕組みを構築したらよいと思う。</p>
(委員)	<p>県外の方のほうが、高松市がどういうまちかということを感じられると思う。他のまちから高松に帰って来ると、高松市、香川県の印象はまた変わってくる。</p> <p>最近何が景観を崩しているかという、電柱や配線が非常に目につくと感じる。中央通りのメイン通りは電線の地中化がなされていてすっきりしているが、一旦後ろの通りに入ると、自転車や電柱の配線が大変多い。仏生山に関しても、まちなみよりも電柱の汚さが非常に気になる。</p> <p>景観づくりの中で気になるのは、鉄塔、電波塔、工作物や路面の色彩などである。おかしなものは出来る限り削除して、シンプルにしたほうがきれいな街並みができると思う。</p>
(委員)	<p>半世紀高松に住み続けている。昔泳げた新川など、これまで景観の変遷を眺めてきた。引退した時に暮らしたい高松市とはどのようなものかと考えたい。</p> <p>数十年先を見据えて、子供たちがきれいなまちと思えるようなものを一緒につくっていきたい。そのために、子供たちが中心に関わるような取組を行っていかねばならないと思う。</p>
(委員)	<p>高松市は広いので、あれもこれも全てやることは難しい。総花的にやるだけではなく、特定の地区を対象とした取組も行い、PRして広めていかねばならない。</p> <p>例えば歴史的な町並みが残る仏生山地区や香西地区などターゲットを絞ることで、県外から来た方によいまちと思ってもらえるような取組を行っていく必要がある。</p> <p>また、郊外部に目を向けると、農業の経営が厳しく、後継者がいない場合も多く、農地を手放したいと考えている人もいる。農家の人にとっては、美しい田園景観という表現に抵抗を持たれるかもしれない。</p> <p>香川県は、平成15・16年に線引きを廃止した結果、旧市街化調整区域である白地地域での開発が顕著に見られるようになり、景観上の課題となっている。</p>
(委員)	<p>冒頭に会長からアレックス・カーの話が出た。古民家が作り出す景観というのも確か</p>

	<p>に美しいと思うが、一方で、ニューヨークのマンハッタンのスクエアガーデンには、派手な屋外広告物が建ち並んでおり、夜はきらびやかなネオン街となるが、これはこれでアメリカ人は美しいと思っている。美しさというのは、地域の風土、歴史、文化に根付いて、地域固有の価値観が表れるものである。</p> <p>高松市は美しいまちであると感じる。代表的には、栗林公園や仏生山の歴史的なまちなみ、屋島もある。もっと言えば、田園とため池が作り出す水田風景も美しく、きれいに保存していれば、今頃重要文化的景観にも選定されていたかもしれない。</p> <p>ただし、高松市が「ものすごく美しいまち」と言われると疑問である。京都市や金沢市などの先進自治体では、良好な景観形成・保全に向けて努力しており、そこそきれいな状態ではなく、極限まで美しい風景を追い求め、その中で、我がまちの方向性を見つけ出している。</p> <p>景観の議論は難しく、簡単に市民の皆さんの合意を得られるものではないかと思うが、これをやらなければ、22世紀に向けてまちが生き残れないかもしれない。国としては、規制、緩和、事業に至るまで、たくさんのメニューを持っていて、何でもできると言えばできる。ただし、お金がかかる、地域の合意形成、選択と集中など、地域によって色々な問題を抱えているが、各公共団体でどれだけの熱意を持って先導的にやっていくのかにかかってくると思う。</p>
(委員)	<p>美しいまちとは、個人が住むのに快適なまちということと、よその人が訪れたいくなる素敵なまち、という二つの側面がある。高松市は、四国四県の中でも、一番いい所だけれど特徴がない、うどんがあるけれど他に何も無いというような感じで、松山や高知にお客さんが流れているのが現状である。美しいまちづくりも良いが、よそから人が立ち寄ってもらえる「観光」という観点からも考えてほしいと思う。</p> <p>栗林公園の園内から見える大きなビルや、空港に降り立った時に目に付く大きな広告塔などはもってのほかである。高松に観光に来られた人に対して、私たちが胸を張って見せられる、魅力あるまちを作っていくという方向性も大事である。</p> <p>屋島では「ゆうやけいフェスタ」など様々なイベントが開催されているが、あれだけの歴史と景観を持っているにも関わらず、置き去りにされている感じが非常に残念である。皆さんに高松市にも足を止めていただけるまちになってほしい。</p>
(委員)	<p>景観や緑など、どこに美しさの重点を置くのが難しいと思う。</p> <p>私が今住んでいる場所は、駅も近く、お店もたくさん建ってきて、子育て世代にとっては便利な所である。また、少し足を伸ばせば自然を体感することも出来る。しかし、便利さばかりに重点を置くと、美しさはなくなってしまう。</p> <p>子どもが自然を感じられる場所が、地区によっては少ないところもある。散歩しながら自然を感じられる環境をつくってもらえると、子どもたちの成長を考える上でもありがたいと思う。</p>
(委員)	<p>川島に住んでおり、コミュニティ協議会のゆめづくり提案事業として、春日川の両岸に花を植える活動に取り組んでいる。台風による春日川の氾濫後、改修工事が進み、私たちの住むまちから屋島が見えるということが初めて分かった。河川沿いを歩いている</p>

	<p>と、本当にすてきなまちであると思える。</p> <p>しかし、皆が皆、花に関心があるわけではないことも分かった。また、花を植えることはいいけれど、美化活動は含まれない、などという問題点も出てきた。</p> <p>まちづくりの裾野は広いが、様々な活動を一体的に取り組むことのできるような仕組みがあれば、市民参加がもっと進んでいくと思う。</p>
(委員)	<p>美しいまちづくりでは、美しいものを守ることと同時に、美しくないものを除くことも重要である。春日川の河川敷にはお墓が昔からあり、あれをいいと思うのはお寺さんくらいではないか。また、台風後などには、川に色々な漂流物が流れてくるのも気になる。</p> <p>春日川の西にある詰田川のコンクリートの護岸を美しいと感じるのか。これは災害を防ぐという観点もあるが、美の感覚というのは人によって異なる。</p> <p>常盤街の商店街についても、あの景観を皆さんはよいと感じるのか。</p>
(委員)	<p>屋島の活性化委員として活動してきた。屋島を外から見るときれいであるが、屋島の中に入ると、廃屋がたくさんあり、美しいとは言えない。</p> <p>外から見られるという観点からは、栗林公園の松についても、手を入れすぎて衰れた姿となっているものがある。</p> <p>また、まちの案内看板が少なく、不親切である。</p> <p>中央通りの楠並木はきれいだと思うが、最近では木が切られたり植栽がなくなったりして、段々緑が少なくなっている。中央通りから南に行くと、ハナミズキの木があった時、とても美しいと感じていたが、それも切られてしまった。若い人々がメイン通りを歩きたくするようにしてほしい。</p> <p>田んぼの周りの水路は、とんぼなど様々な生き物が生息している貴重な環境である。水路がきれいになるようなまちづくりを進めてほしい。</p> <p>他にも塩江町の山里の植林など、ピンポイント的にこういう取組を行っていきたいという考えを持っている。</p>
(会長)	<p>皆さんの意見は多様なものであった。成功事例を見せることも大事という意見もあったが、汚いものを除くのも大切であるという御意見であった。</p> <p>私が高松市で汚いと思うものは、河川のヘドロである。</p> <p>今日のこの場で言い足りないことがあれば、別途、御意見をいただけたらと思う。</p>